



農学は 「食料」「生命」「環境」 を支える総合科学です。

新潟大学農学部 2020年度 学部案内

学部長あいさつ 01

改組について 02

主専攻プログラム

応用生命科学プログラム 03

食品科学プログラム 05

生物資源科学プログラム 07

流域環境学プログラム 09

フィールド科学人材育成プログラム 11

フィールド科学教育研究センター 13

入試情報 14

アクセス 15

学部長あいさつ

農学は、農林水産業の基盤としての学問であるだけでなく、人類社会に広く関わる「食料」「生命」「環境」を支える総合科学として重要です。今日、人類が直面している人口、食料、環境、エネルギーなどに関わる諸問題は、総合科学としての農学分野が中心となって取り組むべき課題と言えます。農学は今最も注目を集める学問分野の一つです。

新潟大学農学部は、「食料生産と環境保全に関する幅広い基礎学力と総合的応用力を備え、わが国のみならず世界で活躍できる、創造性豊かで広い視野を持った人材の育成」を教育目標として、地域、国内および国際社会で活躍する多くの農学系人材を送りだしてきました。本学部は、これまでの豊富な実績をふまえつつ、地域と社会が求める多様なニーズに柔軟に対応できるように、2017年4月から1学科5主専攻プログラムの新たな体制で教育研究をスタートさせます。新たな体制では、新潟の代表的な産業である食品科学分野の教育研究と人材育成を強化しながら、「食料」「生命」「環境」に関する教育研究をさらに充実させます。具体的には、食品の安全性・機能性や新たな加工技術、生物機能の開発と応用、最新のバイオテクノロジー、農林畜産物の生産・加工・流通、地域および地球環境の理解と保全などに関する先端的・実践的な教育研究を附属フィールド科学教育研究センターの機能も活用しながら展開していきます。また、インターンシップを軸とし

た独自の就業力育成プログラムも実施します。そのほか、文科省の「世界展開力強化事業」や学生支援機構などの公的な留学支援制度を活用して多くの学生を海外に派遣し、グローバル人材の育成にも努めています。

新潟は、豊かな自然環境に恵まれ、多様な動植物も見ることができます。また、美味しい米や様々な農産物を産出する日本有数の食料生産地帯であり、1,000社を超える食品関連産業が集積する「食づくり」地域です。米どころ新潟を支えるための分水路や排水機場など大規模な治水工事の成果も目にすることができます。また、新潟は雪崩や地滑りの多発地帯であり、その防災技術も進んでいます。本学部は、このような環境にあることを活用して、フィールドを重視した教育研究も活発に行なっています。

このように、新潟大学農学部には、農学を幅広く学ぶ条件が揃っています。私たち教職員一同は、地域や地球規模で起こっている諸問題を農学的視点で解決しようという意欲にあふれた若者の入学を歓迎します。



新潟大学 農学部長
末吉 邦

農学部は、21世紀における「持続的な農業の発展と環境の保全」を目指し、総合的な教育研究を弾力的に推進・発展させるため、以下のような目標を掲げています。

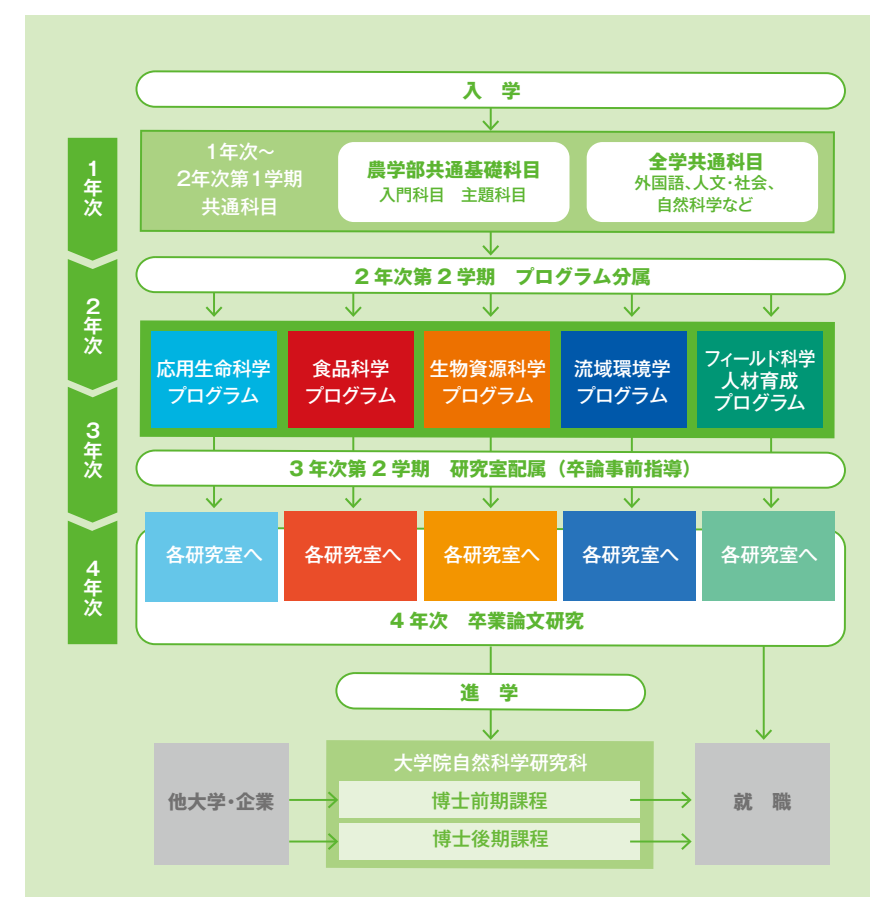
1. 生物生産産業の発展、自然環境との共生に向けて、最新のバイオテクノロジーや情報科学等の科学技術を導入しつつ、多様化する社会の要請に柔軟に対応し得る教育・研究体制の確立
2. 地域農業の生産性の向上や農林業を基幹とした農山村の振興等 に貢献する教育研究
3. 国際的な視野を持ち基礎科学と応用技術を活用できる人材の養成
4. 学際的な研究の活性化及び地域貢献型プロジェクト研究の推進

農学部が変わりました

2017年度より新潟大学農学部は1学科体制になり、入学定員が155名から175名に20名増員されました。新学科（農学科）の中に5つの主専攻プログラムを設けて専門的な教育を行い、地域や社会が抱える諸問題を多角的視点から総合的に理解し、具体的な解決策を提言できる構想力・リーダーシップ力・高い倫理観をあわせ持ち、我が国のみならず広く世界で活躍できる人材を養成します。



入学後のスケジュール





実践的技術を学ぶ科目

- 有機化学実験
- 分析化学実験
- 生物化学実験
- 生物学実験
- 微生物学実験

特色ある授業科目

専門基礎科目

- 有機化学
- 分析化学
- 生物化学
- 微生物学
- 土壌学概論

応用および実用的知識を学ぶ科目

- 醸造学
- 肥科学
- 遺伝子工学
- 植物バイオマス利用科学
- 植物栄養生理学

アドミッションポリシー

化学と生物学を基盤とした最新のバイオサイエンス・バイオテクノロジー・ゲノムサイエンス等、微生物・植物・動物の生命現象とその応用に関する高度な専門知識と実験技術の修得に強い関心のある人を歓迎します！

応用生命科学プログラム

Applied Life Science Program




生物化学実験 実験風景



先端機器を使用した研究風景



微生物学実験 無菌操作の様子

取得可能な資格

■高等学校教諭一種免許状（農業）
 ■食品衛生管理者（※1）任用資格
 ■食品衛生監視員（※2）任用資格
 ■危険物取扱者甲種（※3）受験資格
 （※1）食品製造に関わる事業所、（※2）食品衛生に関する業務を行う検疫所（厚生労働省）・保健所（各自治体）・技術系公務員、
 （※3）研究所・化学工場・貯蔵施設で必要とされる資格です。

卒業後の進路

一般企業：日本ベーリンガーインゲルハイム製薬、阪大微生物病研究所、ゼリア新薬、高田製薬、塩野義製薬、高砂香料、東洋濾紙、

紀州北越製紙、不二製油、ライオン、ヤマサ醤油、正田醤油、秋田今野商店、白瀧酒造、吉乃川、岩塚製菓、越後製菓、亀田製菓、佐藤食品、ブルボン、雪印メグミルク、不二家、日東アリマンなど
 公務員：農林水産消費安全技術センター、農研機構、秋田県、新潟県、福島県、群馬県、富山県、山形県、新潟市、日本学術振興会特別研究員
 大学教員：新潟大学、茨城大学、東京農工大学、秋田県立大学、石川県立大学など
 （前身の応用生物化学科分子生命科学・土壌植物資源科学コースの例、修士・博士修了者も含む）

先輩からのメッセージ

本プログラムでは、化学や生物、遺伝子実験に関する研究に興味がある方に選択してほしいと思います。現在所属する応用微生物学研究室では、微生物の遺伝子制御や酵素に関する研究をしており、私自身は微生物酵素の安定性（どのくらい丈夫なのか）について研究を進めています。3年生までの講義を研究の中で活用し、自ら論文を読むことで知見を広め、自分の研究に取り入れながら、実験を進めています。ぜひ応用



生命科学プログラムを選択してみてください。きっと充実した研究生活が待っています。
 新潟大学大学院 自然科学研究科 博士前期課程1年
中村 緑朗

基礎から応用、実用まで生命科学を幅広く学べます！

もっと知りたいときは >>

<https://www.agr.niigata-u.ac.jp/programs/ouyou-seimei>



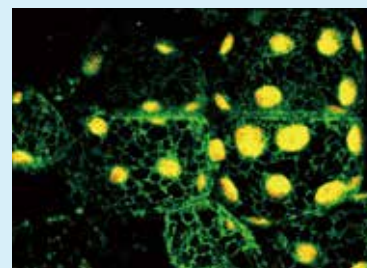
プログラムの特色

応用生命科学とは、微生物、植物、動物などを研究対象として、遺伝子、タンパク質、生理活性物質など、生体分子および細胞の構造／機能、生物のしくみについて先端機器を使った高度な化学分析やバイオテクノロジー、ゲノムサイエンスの手法を駆使した研究を行い、これを応用して新しい機能物質の生産や生物機能の改変を行う学問です。確かな分析能力、高度な解析技術および論理的な思考を鍛える事により、現代的諸問題を科学的手法により解決する能力を涵養します。また、実践的科目群により専門的な情報収集・プレゼンテーションのスキルを修得します。農林畜産物の生産利用・食品・環境・農業・医薬品等について、日常生活に関連の深い生物・化学関連の研究、技術開発、教育等に携わる人材を養成します。

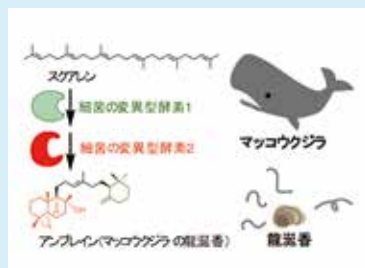
特色ある研究



バイオテクノロジーによる花卉園芸植物の増殖および育種



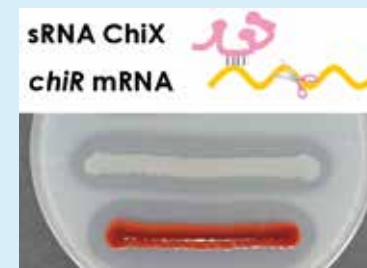
イネα-アミラーゼの応用分子細胞生物学に関する研究



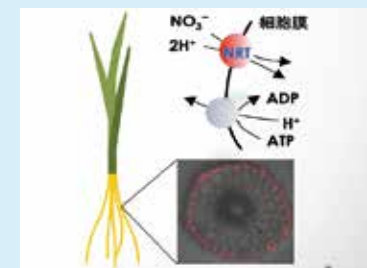
新規・希少生理活性物質の探索、合成による創出および生物合成



植物バイオマスのバイオリファイナリーによるファインケミカルの創製



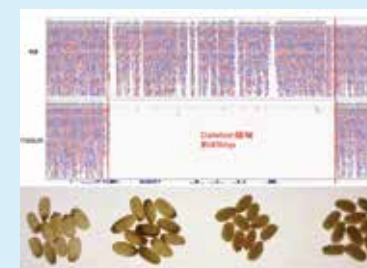
細菌のキチン分解酵素の構造と機能および遺伝子発現調節機構の解明



植物における窒素の輸送と同化の分子メカニズムの研究



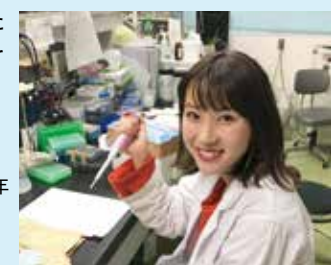
農耕地における放射性セシウムの動態と作物吸収の抑制



代謝工学による新奇特性を持つデンプンの開発

私は入学したてのころ自分が何に興味を持っているのが明確ではありませんでした。しかし、本学科の幅広い専門分野の授業を通して自分がやりたいことを見つけることが出来ました。
 2年次から行っている学生実験では、たくさんの失敗を重ねながらも友人と協力し合いながら実験を行い、最終的にはたくさんの実験方法を習得することが出来ます。現在はお米について研究をし、日々いろいろなことにチャレンジしています。本学科は、研究環境が十分整っているため、ぜひ入学して自分のやりたいことを見つけてください。

応用生物化学科4年
中川 由惟





専門基礎科目

食品化学
食品衛生学
食品工学
食品マーケティング論

特色ある 授業科目

専門科目

食品安全学
栄養学
醸造学
免疫学概論

実験・実習科目

分析化学実験
生物化学実験
食品科学プログラム実地見学
インターンシップ

アドミッションポリシー

現代の食品に求められる栄養価、美味しさ、健康増進作用など多様な機能を理解できる化学や生物の基礎学力を持ち、食品成分の化学的基礎から食品の開発・製造・販売まで食に関する幅広い分野に強い関心のある人を歓迎します！



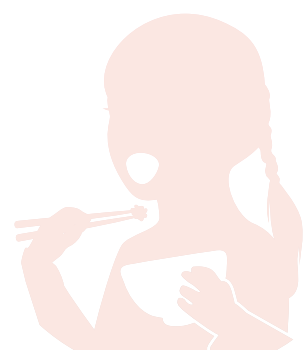
食品科学プログラム

Food Science Program

充実した講義、実験・実習により「食の専門家」を育てます！

プログラムの特色

1,000社を超える食品関連企業を有する新潟は、食品産業が非常に盛んです。新潟大学は食品研究機関や企業等との連携が活発で、見学、インターンシップ、技術者による講義の機会が充実！「食品」の栄養価、化学的特性、美味しさや健康、その評価法に関する基礎を学びます。また他学部や公的機関、民間企業との共同研究や交流が活発です。充実した講義科目に加えて、実験・実習、卒業研究等で高度な技術や考え方が身につくため、卒業生の評価が高いのが特徴です。



特色ある研究



高圧食品加工技術の開発



食品の美味しさや健康増進作用の向上



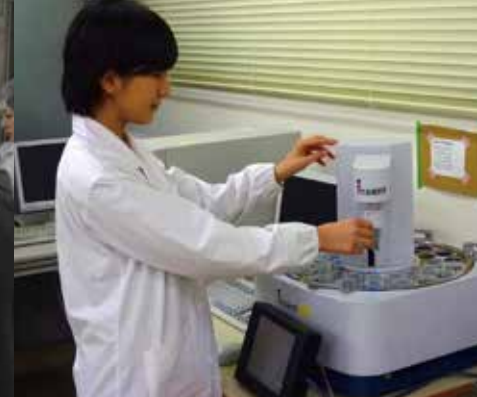
美味しさを形成する化学成分の評価と品質向上



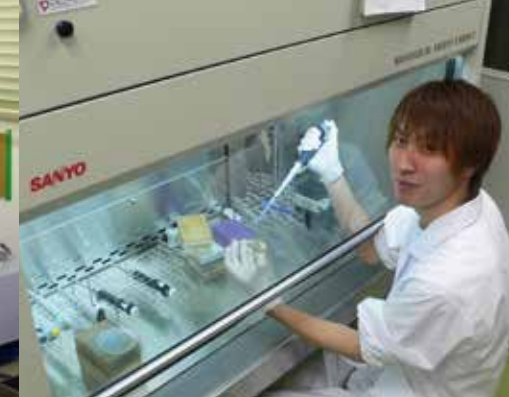
機能性乳酸菌の探索と作用機構解明



実地見学で食の安全管理を学ぶ



美味しさの評価



無菌操作（細胞培養実験）

取得可能な資格

■高等学校教諭一種免許状（農業）
■食品衛生管理者（※1）任用資格
■食品衛生監視員（※2）任用資格
■危険物取扱者甲種（※3）受験資格
（※1）食品製造に関わる事業所、（※2）食品衛生に関する業務を行う検疫所（厚生労働省）・保健所（各自治体）・技術系公務員、（※3）研究所・化学工場・貯蔵施設で必要とされる資格です。

卒業後の進路

一般企業：味の素冷凍食品、伊藤ハム、越後製菓、大塚製菓、花王、亀田製菓、キリンビバレッジ、キュービー、サトウ食品、サッ

ポロビール、日清食品、日医工、ニチレイ、日本製粉、フジパン、プリマハム、ブルボン、ポッカサッポロフード&ビバレッジ、持田製菓、森永製菓、山崎製パン、雪印メグミルクなど
団体・組合：日本食品分析センター、JA 全農にいがた、JA えちご上越など
公務員：厚生労働省、新潟県、秋田県、東京都、富山県、福島県、山形県、新潟市、仙台市、長野市、福島市、横浜市など
大学院：新潟大学、東北大学、千葉大学、東京農工大学など
（前身の応用生物化学科食品・栄養科学コースの例、修士修了者も含む）

もっと知りたいときは >>

<https://www.agr.niigata-u.ac.jp/programs/shokuhin-kagaku>



先輩からのメッセージ

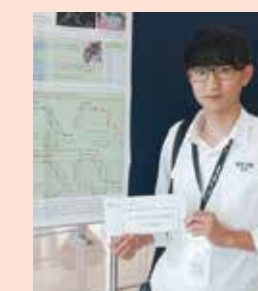
食品の分野にはおいしさや健康機能など様々なテーマがあります。これらのテーマに対し、食品科学プログラムでは有機化学や生物化学、栄養学といった幅広い基礎知識を学んだ後、いろいろなアプローチで研究に取り組むことができます。私は栄養制御学研究室で食品の風味と化学成分の関連性を研究しながら、アーチェリー部にも所属し、充実した大学生活を送ることができました。皆さんと一緒に「食」のエキスパートを目指してみませんか？

新潟大学大学院
自然科学研究科
博士前期課程
2019年修了

伏見蒲鉾株式会社
小林 哲也



私が農学部に進学を決めたのは、食べることが好きで、私たちの生活に密接に関わる「食」に関係する職業に就きたいと思ったからです。農や食についての様々な講義を受けることができ、幅広い専門知識が身に付きます。特に実地見学や学生実験などの体験型の講義があることが強みだと思います。「食」について以外にも化学や生物を基礎として、動物や植物、微生物などを対象とした様々な分野を学ぶことができ、自分の学びたいものがきっと見つかると思います。勉強はもちろんですが、頼もしい先輩や新たな同級生と充実した学校生活を過ごしてください。



新潟大学大学院
自然科学研究科
博士前期課程1年

峯崎 重隆





食料・資源経済学分野

食料資源経済学
国際フードシステム論
農業経営学
アグリビジネス論

植物生産学分野

作物学概論
蔬菜園芸学
植物遺伝学
植物病理学

動物生産学分野

動物解剖生理学
動物遺伝学
動物発生生殖学
草地生態学

特色ある授業科目

アドミッションポリシー

動植物の遺伝子から個体を取り巻く環境までを理解し、生物資源の利活用におけるバイオテクノロジーや先進的技術の開発と応用に挑戦する意思を持ち、さらに国際的視点を持ちながら食料生産や農山村地域の持続的発展に強い関心のある人を歓迎します！



生物資源科学プログラム

Program of Agriculture and Bioresources

3つの分野で幅広く学べます！

プログラムの特色

農畜産物の新しい品種の開発・試験から、生産・普及・流通・加工・消費・循環に至るフードシステムの広大なフィールドを使って、土・稲・畑作物・産業動物などの生物資源の開発や利活用に関する先端的で幅広い知識を学べます。実際に農場を研究の舞台とし、室内のラボだけでは得られない本当の農業を幅広く体験できます！

国際的な視点をもちつつ、全国有数の農業県である新潟の農村に仲間と出かけ、現場の人たちと共に地域の悩みを考えることは、日本や世界の農業農村の持続的発展の方策や食料資源問題の解決策を科学的に考える第一歩となります。

花や果物、野菜、穀物、動物、ウイルスまで、多くの生命現象について学べます。動植物が持つユニークな特徴を明らかにすることは大変ですが、努力の末に得られた成果は大きな喜びをもたらします。

特色ある研究



持続可能な農業・農村開発に関する研究（上海市の大規模有機・観光農場の様子）



地域資源の管理と評価に関する研究（農業の多面的機能の評価を含む）



消費者意識・行動に関する研究（農産物・食品に対する消費者の意識調査の様子）



植物のゲノム情報、細胞、組織、個体、圃場栽培の研究



栽培実習（リーフレタスの収穫）



乳汁中のホルモン測定実験



乳牛搾乳実習

取得可能な資格

- 高等学校教諭一種免許状（農業）
- 家畜人工授精師（牛）

卒業後の進路

一般企業・他：ブルボン、フジパン、越後製菓、一正蒲鉾、日本ハム惣菜、マルハニチロ、八海醸造、伊藤忠食糧、びゅうトラベルサービス、ローソン、シージーシージャパン、ジーユー、モンベル、第一印刷所、明治安田生命、北越銀行、富士製菓工業、バイオテックジャパン、婦人科クリニックなど
農業関連：農業総合研究所、カネコ種苗、サカタのタネ、新潟中央青果、イオンアグリ創造、

新潟クボタ、JA東日本くみあい飼料、農業法人、海外農業研修など
団体・組合：JA（全農、中央会、農業共済、各市町村JA）、日本食肉格付協会、家畜改良センター、新潟県信用組合など
公務員等：農林水産省、総務省、新潟県、東京都、福島県、群馬県、新潟県警、滋賀県警、新潟市、さいたま市、宮城県高校教員、富山県高校教員、茨城大学職員など
大学院：新潟大学、京都大学、名古屋大学、北海道大学、筑波大学、奈良女子大学など（前身の農業生産科学科の例、修士修了者も含む）

先輩からのメッセージ

生物資源科学プログラムでは、理系でありながら農業経済という分野も学ぶことができるプログラムです。入学後、多様な分野に触れてきた私は農産物の流通や販売、農業農村開発などに関心を持ったため、食料・資源経済学分野に進みました。農家の方をはじめ、様々な立場の方と実際に知りあいながら調査を行う実習もあり、こうした機会は農学に対する視野を広げることにつながりました。私は現在大学院で「農業法人における人材育成の実態と課題」について研究しています。

是非、生物資源科学プログラムで私たちと一緒に学びましょう！

新潟大学大学院
自然科学研究科
博士前期課程1年
池田 健人



私はもともと農業に興味があり本学部に入学しました。生物資源科学プログラムは植物や動物、農業経済など幅広い分野を座学だけでなく実習を通して五感で学べる点が魅力で、農業は多様な学問で成り立っていると実感出来ると思います。現在、私はダイズの遺伝子変異による生育への影響について研究を進めており、改めて植物の不思議や生命力に感動します。ぜひ、一緒に本プログラムで農業を学びましょう！



農業生産科学科4年
白石 佳那

もっと知りたいときは >>

<https://www.agr.niigata-u.ac.jp/programs/seibutsu-shigen>



多様な作物と園芸植物の育成



室内から圃場まで、幅広い研究環境



生殖技術を利用した遺伝子改変マウスの作製



ゲノム解析によるトキ野生復帰に関する研究



持続的森林管理と生態系保全

フォレスター入門
森林遺伝育種学
森林保全学
森林再生学

特色ある
授業科目

情報ネットワークの活用

食料環境工学
精密農業工学
食品・農業情報工学
バイオマスエネルギー論

食料生産の基盤整備

農環境デザイン入門
農地と水利用
土壌工学
環境材料工学



アドミッションポリシー

河川上流の森林地帯から中山間地を経て下流の平野部に至る流域を対象とし、地域の自然環境と調和した持続的な農林業の生産活動に強い関心のある人を歓迎します！



流域環境学プログラム

Program of Environmental Science for Agriculture and Forestry

一次産業と関連分野をそっと支える分野を学びます！

プログラムの特色

人と自然の共生を考えることができる、「緑の下力持ち」になろう。その「力」は、河川上流の森林地帯から中山間地を経て下流の平野部に至る流域を「人の生活」と「資源の循環」の大きなまとまりとしてとらえ、地域の自然環境と調和した持続的な農林業を可能にする力。そのために、持続的な森林管理と生態系の保全、食料生産の基盤整備、および情報ネットワークの活用に関する幅広い専門知識と技術を学修します。



特色ある研究



地域活性化・震災復興に関する研究



地すべり防止施設の維持・管理に関する研究



農業水利システムの非破壊診断法の開発



UAV 空中写真を用いた森林保全に関する研究



5月、多雪地ブナ林の生育環境調査



水資源の要、利水ダムの現地見学



農産物品質の非破壊測定実験

取得可能な資格

- 高等学校教諭一種免許状（農業）
 - 樹木医補
 - 自然再生士補
 - 森林情報士2級
 - GIS学術士
- （取得しやすい資格）2級ビオトープ管理士

卒業後の進路

一般企業：福田組、本間組、興和、ヤンマー、アグリジャパン、JT、日本製紙、電気化学工業、エヌ・シー・エス、ソリマチ、マルハニチロ、味の素冷凍食品、JR 東日本、NECソ

リューションイノベータ、ナルサワコンサルタンツ、ミサワホーム、本間造園、日本森林技術協会、日本工営、若鈴コンサルタンツ、安藤間、日本製紙など
公務員：農林水産省、林野庁、関東農政局、北陸地方整備局、農研機構、新潟県、北海道、福島県、長野県、富山県、群馬県、神奈川県、静岡県、愛知県、徳島県、新潟市、燕市、三条市、前橋市、小松市、富士見町など
大学院：新潟大学、東北大学、千葉大学、京都大学、九州大学、兵庫県立大学など
（前身の生産環境科学学科の例、修士修了者も含む）

先輩からのメッセージ

山から湧き出し、平野を流れて川へ注ぐという河川の流れをイメージしてみてください。その流れの中で出会う、緑生い茂る森や様々な野生動植物など全てが私たちの研究対象です。現地に赴いて調査を行うことが多いので、自然に触れる機会が多いのもこのコースの魅力です。迷った時はいつでも個性豊かな先生方が支えてくださるので心配は要りません！流域環境学コースで



味のあるテーマを存分に究めてみませんか？

新潟大学大学院
自然科学研究科
博士前期課程1年
篠原 朋恵

もっと知りたいときは >>

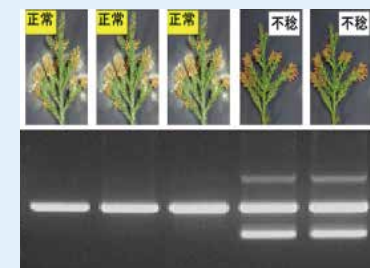
<https://www.agr.niigata-u.ac.jp/programs/ryuiki-kankyau>



ユキツバキの繁殖生態に関する研究



水辺林における生態の解明



無花粉スギの普及拡大に関する研究



田んぼダム実施地区における効果検証

流域環境学プログラムの魅力は、農業基盤構造物や森林の生態系など農林業に関わる幅広い分野を学ぶことです。学んでいく中で、視野が広がり多角的に考える力を養うことができます。また、実習や現地研修が充実しているため、講義で学んだ知識や技術が現場でどのように利用されているのかを体験を通して理解を深めることができます。森林などの自然が好きな人、食料生産を支える農業基盤に興味がある人にぴったりのプログラムだと思います。



生産環境科学科4年
寺田 恭貴



アドミッションポリシー

野生動植物の生態や保全、自然災害発生のメカニズムや自然環境に配慮した防災・減災対策・災害復興の知識や技術の修得と、多様なフィールドでの実践活動に強い関心のある人を歓迎します！

生態学に関連した科目

野生植物生態学
野生動物生態学
里地里山再生学
希少生物保全学

特色ある授業科目

災害科学に関連した科目

環境砂防学
雪氷防災学
斜面災害論
地質災害論

環境動態に関連した科目

温暖化メカニズム・影響学
地球環境科学
海洋化学
水圏・水環境学



野生動植物の生態を体験的に理解する



地質調査法、地形調査法を学ぶ



防災施設の設計技術を学ぶ

フィールド科学人材育成プログラム

Program of Field Research in the Environmental Sciences

多彩なフィールド科学分野の講義・実習科目を学べます！

もっと知りたいときは >>

<https://www.agr.niigata-u.ac.jp/programs/field-jinzai>



プログラムの特色

理学部と農学部の教員が協働で講義や実習を担当する新しい学部横断型プログラムです。理学分野における基礎科学的な講義・実習と、農学分野における応用科学的な講義・実習を同時に学べます。豊富な科目群の学修やフィールドでの実習体験を通して、野外の様々な場面での問題解決に必要な科学的知識と実践的な技術を身につけます。臨海実験所、演習林、朱鷺・自然再生学研究センター、災害・復興科学研究所との協働体制をとることで、生物や環境の長期調査・モニタリングを実施できる機会を提供し、より実践的な研究を行います。

特色ある研究



希少生物の保全と生態に関する研究



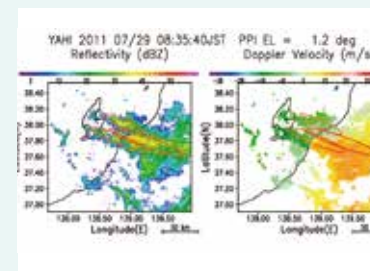
ワイルドライフ・マネジメントの実践



里地里山の自然再生に関する研究



海岸林における地球温暖化の影響に関する研究



気候システムにおけるメカニズムの解明



海洋中の化学成分の分布と循環の解明



山岳地域で発生している現象の解明



激化しつつある土砂災害の被害軽減に関する研究

先輩からのメッセージ

水は山地をどう動くのか？土砂災害のメカニズムは？フィールドに飛び出すと、自然現象に関する様々な発見が見えてきます。

私は、積雪山地というフィールドの中で、水がどのような挙動を示すのかを探求する「水文学（すいもんがく）」を専門的に学んできました。現地に足を運び、目で見、手で触ることで、雄大な自然を科学していくことがこの分野の面白さだと感じます。山・海・空・島に飛び出し、フィールド科学の醍醐味を体験していきましょう！



新潟大学大学院
自然科学研究科
博士前期課程2年
小林 匠

フィールド科学人材育成プログラムでは、生態系管理に関わる自然的・社会的環境について様々な科学的アプローチから学んでいます。実習や調査を通して、座学で学んだことを現場で再確認できるのも魅力の一つです。また卒業研究は生態系保全や流域の水循環についてなど選択肢が多いです。少人数制の指導なので、教員との距離が近く、やりたいことや興味をもったことにどんどん挑戦できると思います。



生産環境科学科4年
星 ゆきの

フィールド科学教育研究センター

実践的農学教育・研究・地域連携の最前線でありたい！

2001年に従来の附属農場および附属演習林が統合され、企画交流部・耕地生産部・森林生態部の3部体制でフィールド科学教育研究センターが設立されました。これは「食料問題」および「環境保全」という今世紀最大の課題が、これまでの細分化された個々の学問領域では対処しきれないことから、新しい総合的視野に立つ「フィールド科学」の構築を目指したものです。

2019年度より、森林生態部が佐渡自然共生科学センターへ統合されたことに伴い、当センターは企画交流部および耕地生産部の2部体制で再スタートを切りました。今後も、学部の教員と緊密に連携して農業・環境問題に取り組んでいきます。

企画交流部

農業生産と環境保全に関する教育・研究を推進するために、総合的なプログラムおよびプロジェクトを企画調整しています。特に、地域特有の農業・環境問題を積極的に汲み上げ、農学部と地域社会との交流窓口として情報の収集・管理・発信を行っています。また、農学部教育に関する事項について、フィールド科学教育研究センターと佐渡自然共生科学センター演習林（旧森林生態部）との連携に取り組んでいます。



FCシンポジウムの開催



五泉市との連携協定の締結

耕地生産部

【概要】

耕地生産部には村松ステーションと新通ステーションの2つのステーションがあり、それぞれ五泉市（旧村松町、新潟大学から45km）、新潟市西区新通（新潟大学から3km）に所在しています。村松ステーションは16haの圃場を有し、食用作物（ダイズ、ジャガイモ）、野菜類（ナガネギ、スイカ、ダイコン）および牧草を作付け、乳牛やヤギを飼育しています。新通ステーションは2.7haの圃場を有し、水稻を中心に作付けし、転作作物としてタマネギ、エダマメ、ソラマメ、サトイモ、トマト、ナス、キクなどの野菜を栽培しています。一部は施設栽培を行っています。また、春季には草花やハーブの苗生産も行っています。



村松ステーションでの実習風景 土壌調査・搾乳



新通ステーションでの実習風景 ソラマメの収穫・稲刈り

【教育・研究】

基礎的な農作業体験を目的として、農学部全学生の必修である「基礎農林学実習」を両ステーションで開講しています。また、植物生産学・動物生産学・農業機械学等を専攻する学生の専門的な実習も開講しています。耕地生産部では、播種から収穫まで、また出産から牛乳生産までの農業生産の全過程を対象にして、環境負荷の少ない持続的農業に関する研究を行っています。村松ステーションでは、農業機械利用による省力生産技術、耕種と畜産での資源循環、資源循環型酪農における乳牛の生産性および繁殖成績について研究しています。新通ステーションでは、稲作における水管理や肥培管理、環境に配慮した野菜栽培技術について研究しています。

【地域連携・社会貢献】

村松ステーションでは、五泉市と連携して、地域中学校の農場実習や児童・園児の農場見学などを受入れているほか、学校給食用野菜を提供しています。また、五泉市のブランド野菜であるサトイモの連作障害対策について試験調査を行っています。新通ステーションでは、園児の農業体験を毎年開催しています。また、新潟大学自然科学研究科大学院教育のプロジェクトの一環として、地域の酒造会社と連携し、農場で栽培した酒米を用いた大学ブランドの日本酒「新雪物語」を作っています。他に、農場開放やキャンパス市を開催し、地域との交流を行っています。

入試情報

【入学定員】

学部	学科	入学定員	募集人員				
			一般入試		推薦入試	帰国子女	社会人
			前期日程	後期日程			
農学部	農学科	175人	111人	30人	34人	若干人	-

【選抜方法】

農学科全体で入学者選抜試験を実施します。主専攻プログラムへの分属は2年次第2学期から行います。

なお、推薦入試では、主専攻プログラムごとに選拔し、合格者を決定します。フィールド科学人材育成プログラムの募集は行いません。

学科	主専攻プログラム	募集人員		
		前期日程	後期日程	推薦
農学科	応用生命科学プログラム	111人	30人	7人
	食品科学プログラム			6人
	生物資源科学プログラム			11人
	流域環境学プログラム			10人
	フィールド科学人材育成プログラム			-

【一般入試】

学科名	区分	センター試験の利用教科・科目		個別学力検査等	
農学科	前期	【国語】 【数学】 【理科】 【外国語】	必須 数I・数A 必須 数II・数B 必須 物理、化学、生物、地学 から2 英語、ドイツ語、フランス語、 中国語、韓国語 から1	【数学】 【理科】 【外国語】	数I・数II・数A・数B 物理基礎・物理、化学基礎・化学、 生物基礎・生物、 地学基礎・地学から1または2 コミュニケーション英語I～III・ 英語表現I・II 必須
	後期	【地理歴史・公民】	世界史B、日本史B、地理B、 現代社会、倫理、政治経済、 倫理・政治経済 から1 （5教科7科目）	【その他】	面接 必須

【推薦入試】推薦入試は主専攻プログラムごとに実施します。

1. 募集方法及び募集人員 ※推薦入試では、フィールド科学人材育成プログラムの募集は行いません。

学科	主専攻プログラム	募集人員	センター試験	本学が実施する 試験等	配点			
		2020年度			小論文	面接	書類審査	合計
農学科	応用生命科学プログラム	7人	課さない	小論文 面接 書類審査	50	30	20	100
	食品科学プログラム	6人						
	生物資源科学プログラム	11人						
	流域環境学プログラム	10人						
合計		34人						

2. 出願要件

学科	主専攻プログラム	募集人員	推薦入試の対象となる高等学校の範囲
		2020年度	
農学科	応用生命科学プログラム	5人	高等学校の普通科等（下記以外の学科）
		2人	農業・工業・水産及び家庭に関する学科並びに総合学科（注1、2）
	食品科学プログラム	4人	高等学校の普通科等（下記以外の学科）
		2人	農業・水産及び家庭に関する学科並びに総合学科（注1、3）
	生物資源科学プログラム	6人	高等学校の普通科等（下記以外の学科）
		5人	農業に関する学科及び総合学科（注4）
	流域環境学プログラム	6人	高等学校の普通科等（下記以外の学科）
		4人	農業及び工業に関する学科並びに総合学科（注5）

（注1）家庭に関する学科は、食物に関する教科・科目を20単位以上修得（見込みを含む。）した者を対象とします。

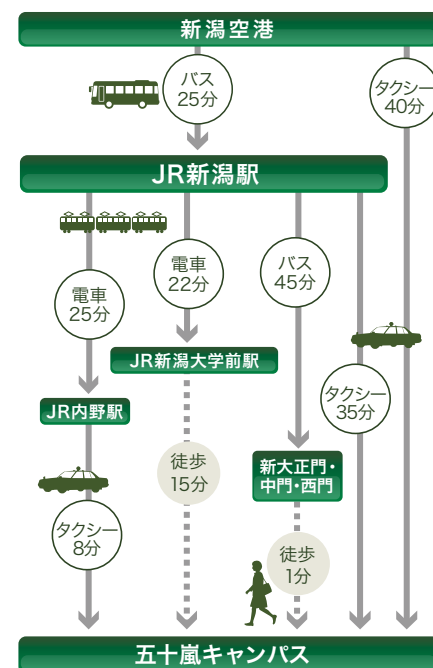
（注2）総合学科は、農業、工業、水産又は食物に関する教科・科目を20単位以上修得（見込みを含む。）した者を対象とします。

（注3）総合学科は、農業、水産又は食物に関する教科・科目を20単位以上修得（見込みを含む。）した者を対象とします。

（注4）総合学科は、農業に関する教科・科目を20単位以上修得（見込みを含む。）した者を対象とします。

（注5）総合学科は、農業及び工業に関する教科・科目を20単位以上修得（見込みを含む。）した者を対象とします。

新潟大学農学部へのアクセス



〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地

●総務係

TEL (025)-262-6603

FAX (025)-262-6854

●フィールド科学教育研究センター事務局

TEL (025)-262-6672



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

Faculty of Agriculture
Niigata University 2020

新潟大学農学部

2020年度 学部案内



● 応用生命科学プログラム
Applied Life Science Program

● 食品科学プログラム
Food Science Program

● 生物資源科学プログラム
Program of Agriculture and Bioresources

● 流域環境学プログラム
Program of Environmental Science for Agriculture and Forestry

● フィールド科学人材育成プログラム
Program of Field Research in the Environmental Sciences